



ボタニカルニュース



園チーム佐川推進課
電話 22-7740

① 季節はもう初夏☆

桜の季節も過ぎ、周りは美しい新緑です！四季は目まぐるしく動いていきますね。ちなみに、今年の桜は満開時期がとてと長く、週末も良いお天気で、こんなことは10年に1度だと言われている方もいらっしゃるかもしれません！皆さん心ゆくまで堪能されましたか？さてこの時期、牧野公園ではウマノアシガタの大群生が現れます！さながら黄色の絨毯です。田んぼの縁や空き地など、どこでも見られるお花ですが、群生するとなかなかの見応え！（見頃は5月上旬頃まで）春の花盛りシーズン、皆さんお散歩にお越し下さいね♪



ウマノアシガタ

② 5月に見頃のお花たち♪

A. ウマノアシガタ(馬の脚型)
キンボウゲ科キンボウゲ属。名前は根元の葉(根生用)を馬のひづめに見立てたといわれるが、あまり似てない。花...4~5月頃。(写真左上)

B. シライソウ(白糸草)
シロソウ科シライソウ属。和名は糸屑を束ねたような花の姿に由来する。花...4~5月頃。



C. サカワサイシン(佐川細辛)



ウマノスズクサ科カンアオイ属。牧野博士が佐川町で発見し、命名したものの。佐川町の花。花...4~6月頃。

D. ガンゼキラン(岩石蘭)
ラン科ガンゼキラン属。やや大型の地生ラン。名前は葉の付け根の膨らんだ部分(偽鱗茎)の様子が岩石に見立てたことに由来。花...5~6月頃。



③ 株フタガミさんからの ありがとうお申し出☆

3月29日(金)、満開に咲き誇る牧野公園の桜の下で、「株式会社フタガミ・佐川町 牧野博士がとりもつ協働記念式典」がとり行われました。こちらは株フタガミさんより、この春販売開始となった「牧野さんのさくらさくアイス」の売り上げの20%を、牧野公園整備に寄付してください



るといふ、とてもありがたいお話です！そしてさらに今回の式典でも、10万円のご寄付とアイス頂きながら、参加者みんなが試食しながら、この企画が実現するまでの熱い想いを聞かせていただきました。(なお、公園お隣の花園保育園さんにも、たくさんのおアイスをいただきました。ありがとうございます！)。ありがとうございます！式典の最後にはみんなで育てたヒゴスミレ(牧野博士命名種)とオキナグサの記念植栽も行いました。公園にしっかりと根付いて、毎年みんなをお迎えしてくれるといいですね！
今回のご厚意を大切に、これからの牧野公園づくりにしっかりと繋げていきたいと思ひます☆

青山文庫だより

春の企画展

「青山文庫の収蔵品あれこれ」書と画にみる美術の世界」開催中です

前回ご紹介したとおり、現在青山文庫では普段ほとんど展示する機会がない収蔵品の中から、「書と画」を対象をしぼって展示する、春の企画展「青山文庫の収蔵品あれこれ」書と画にみる美術の世界」を開催しています。中でも、正倉院宝物であったり、国宝や重要文化財などであったりするものの複製を展示している点が青山文庫にとっては大変珍しい事です。

4月に入り新しい元号が発表された事により、その出典である「万葉集」が注目に値するようになりました。「万葉集」は、奈良時代に成立した和歌集で、現存する日本最古の和歌集でもあります。ただし、いわゆる完成原本というものは確認されておらず、多くの写本でその内容が知られてきました。また、成立などについても諸説あります。

写本の中で一番古いものは「桂本(万葉集)」と呼ばれており、平安時代中期のもので、この他に同じ平安時代の写本と

して「藍紙本」・「元暦校本」・「天治本」・「金沢本」などが知られており、これら5つが「五代万葉集」と称されています。もちろん、これ以降も数々の写本が作成され、古くからこれらの写本自体が貴重な書物として珍重されてきました。

例えば、「桂本」は、元をたどると伏見天皇(鎌倉時代の天皇)の所有物であったように、戦国時代以降に前田利家(加賀前田家の祖)の所蔵となり、江戸時代に入ってから利家の孫娘が八条宮(桂宮)家に嫁いで八条宮家の所蔵となり、明治時代に明治天皇の御物となったと伝わっています。この伝来からも、写本とはいえ、如何に貴重なものとして扱われてきたかがおわかりいただけると思います。

現在開催中の春の企画展では、「桂本」と「天治本」の模写複製(一種)を展示しています。両者とも、模写ではありますが、万葉仮名で書かれた様子を十分楽しめる事ができます。ぜひご覧ください。

(青山文庫 藤田有紀)

〈展示案内〉
○春の企画展「青山文庫の収蔵品あれこれ」
○小展示「志士たちの遺墨」
○小展示「西谷文庫の世界」

3月16日(土)~6月23日(日)

文芸

川柳

弟達く 幼い頃の 背の温み
塩タタキ 人気出過ぎて 少し引く
竹内 千恵子

対岸の 火事と思わぬ 我が地域
イノシシに 農家の汗が 判るまい
和田 憲一

俳句

一両車 春田の中の 駅に着く
味元佐知子

短歌

花嵐 桜舞い散る 通学路
希望にもえて 入学式
西村 弘子

手水鉢に 少し残れる 薄氷を
割ればサクツと ききやくれる
黒岩 英起

春一番 長きトンネル 抜け出して
青空のもとに すがめが飛び立つ
福寿草(ペンネーム)

未っ子も 八十路に入りて 兄妹が
問うは元氣か 変わりはないか
松田 佐恵子

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか？

※7月号への掲載を希望される方は6月1日(土)まで

投稿方法:氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かを記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。

(今月は応募多数につき、抽選となりました。ご了承願います。)